

JECK JICA Experts' Conference of Kanagawa

JICA帰国専門家連絡会かながわ

第24号

JECK2014年度 下半期活動ニュース

JECK創立12周年記念講演会 サンゴ礁の人々と音楽—講演要旨—(2015.01.24)

JICA横浜国際センター小幡所長の祝辞に続き、近森正慶義塾大学名誉教授の「サンゴ礁の人々と音楽」の記念講演会を開催した。

近森名誉教授は、サンゴ礁の島は、高くても海拔4メートルを超えず、高波をかぶりやすい。土壌は砂、サンゴの破片等で、雨が降っても水の保持性が小さく植物が繁殖しにくい。砂漠よりも厳しい環境である。サンゴ礁の島々になぜ人が住むようになったか? 小さな力でも、広い海洋を航海して島にたどり着いたのか? と説き起こした。

サンゴ礁に住む人々は、文字を持たないから、これらの問いに答えるためには、音楽等の伝承文化の研究が必要である。彼らはチャント(歌)を歌うことにより、伝承を引き継ぎ、歴史を語っている。但し、チャントの内容は暗示的であり、系統的ではない。チャントは、サンゴ礁の人々の季節的な活動、子供の成長、愛、成果、歓迎と別れ、葬儀と結びついている。人々はチャントを歌い、新しいチャントを作り文化を伝承している。

人間は素晴らしい。人が住みにくいサンゴ礁にも豊かな文化がある。「土着の目に学ぶ」の言葉でこの講演を締めた。(P2関連記事参照)

講演後の質疑応答も活発で、懇親会の席上でも和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われた。



講演する近森名誉教授



講演会

横浜市水道局西谷浄水場・水質検査所・水道記念館見学(2014.11.28)

会員8名が参加し、横浜市水道局の西谷浄水場、水質検査所、水道記念館を見学した。活発な質問にも答える担当者の懇切丁寧な案内で予定の3時間が足りないくらいであった。横浜市の水道の歴史、給水事業の実態、水質管理の現場など盛りだくさんの知識を得た。横浜市では喝水の心配が無いとのことである。



横浜水道記念館

横浜雙葉学園高校での出前授業(2014.11.19)

上田恵一会員が、「理数科が好きになるイスラムの建築とデザイン」のタイトルで、出前授業を実施した。この授業は、生徒が理系か文系への進路を決めるための参考授業の一環として実施され、2クラス(90名)×2回計4クラス180名の生徒が受講した。興味深いテーマ、わかりやすい授業で理系を選ぶ生徒が増えることが期待できる。



上田会員の授業

関東学院大学と「国際協力の現場」 講義に関し契約締結(2015.02.20)

2月20日に植岡・高遠・丸山の3名が関東学院大学経済学部を訪問し、福田敦経済学部長、山本勝造教務主任と「国際協力の現場」授業委託契約書及び関東学院大学経済学部とJICA帰国専門家連絡会かながわとの「連携・協力に関する覚書」に調印した。

この二契約に基づき、4月9日(木)から、15回の講義を行う。また、新たに連携・協力事業を加え、同学経済学部の学生がグローバルな視野を持って将来の活躍の場に進むことが出来るように、我々JECKとして現場の知識や経験をともに彼等の育成のために全面的に協力をする。(P3関連記事参照)

契約書調印
福田経済学部長(右から2人目)
植岡理事長(右端)

ほどがや国際フェスタ2014 へ参加(2014.10.16)

一般市民へのJECKの広報と国際協力の思想の普及のために、ほどがや国際フェスタに参加した。

狭い会場で短時間の行事ではあったが、フェスタのテーマの「世界のお茶」に沿って会員提供のマテ茶器の展示、子供たちを対象とした「国当てクイズ」等で、JECKをPRした。



国旗当てクイズ



マテ茶器の展示

よこはま国際フォーラム2015 に参加(2015.02.07)

みんなで創る横浜の国際協力「多文化共生」をテーマとしたよこはま国際フォーラム2015(よこはま国際フォーラム2015プロジェクト主催)に、参加して2月7日に、JICA横浜センター会議室で、「JECKと国際協力(植岡龍太郎理事長)」、「パラグアイでの技術協力の例(山田敏雄理事)」の2テーマで講演した。



植岡理事長



山田理事



講演会

よこはま国際フェスタ2014 に参加(2014.10.18~19)

象の鼻パークで開催された横浜国際フェスタ2014に参加し、パネル展示、会報配布等でJECKの活動を紹介した。

JECKへの入会希望者もあり盛況裏に終了した。



JECKブース



おんがくひろばのパフォーマンス



JICA横浜国際センター小幡所長祝辞

JECK推薦神奈川県招聘海外技術研修員 イッチイロツチャナグン・パッチャラポー ンさん(愛称オイルさん)帰国

オイルさんは、神奈川県企業庁水道水質センターでの研修、JECKでの研修報告会、県庁での研修修了式を済ませて、3月13日に帰国した。(P4関連記事参照)



研修



研修センターの歓迎会



研修修了式 中央:黒岩知事 前列右端:オイルさん

●サンゴ礁の人々

海底から生長してきたサンゴ礁の島にココヤシが植えられ、それが根をおろす。島に名が与えられ、神話や伝承が語りかけられる。そうして、はじめて人間の世界が始まる。無文字社会の歴史は口頭伝承と分ちがたく結びついている。その保存と継承は音楽によってなされる。クック諸島のプカプカ環礁の島に住む人々にとってチャントをつくり、歌うことは歴史を語ることにほかならない。しかし、その物語はけして筋立てて語られるわけではない。ただ単に、事柄を想起させるだけで、簡単な参照や輪郭、あるいは速記的とでも云えるような一種のカatalogueの表現によって暗示するだけである。頻繁に用いられる比喻や隠喩は分かりにくく、歌詞の言葉も普通の会話体とは異なり、極めて様式化している。チャントは今でも盛んにつくられているから、その数をかぞえ上げることは難しい。おそらく、数百になるだろう。海の中の貧しい砂の上に単調な生活を送る人々が、かくも多様で内容豊かな伝承と音を紡ぎ出していることに心揺さぶられる思いがするのである。



近森教授のスケッチ

●音楽の形式

伝統的なチャントには二つの音楽形式がみとめられる。長く単調な二拍子で詠唱するマコmako(詠唱歌)と、短くりズムをもって三拍子で朗唱する形式チラtila(朗唱歌)である。ともに特徴的な多声音楽(ポリフォニー)と和声的ハーモニックな歌唱スタイルをもっている。マコはどちらかというと、宗教的、あるいは、あらたまった場合に歌われる。楽器を用いることはなく、踊りもともなわない。これに対して、チラは日常的な明るい雰囲気をもっている。歌われるチャントが太鼓のリズム導き出し、それが踊りの身振りを誘い、それがチャントに内容を与える。チャントと太鼓と踊りの三つの要素が相互に引き出し合う総合芸術であると云ってもいい。

●教会と音楽

日常生活で最も大切な歌唱はイメネ・トゥキである。イメネはhymnのポリネシア語訳、トゥキは歌の中で男性が鳴らす短い喉頭音を指す。タヒチで宣教活動を開始したロンドン伝道教会が1823年にクック諸島南部のアイツタキ島に到来し、導入された教会の讃美歌がもとになっている。イメネ・トゥキは讃美歌とは云っても、伝統的なマコを基礎に出来上がっていると考えられ、讃美歌のヨーロッパ的な音調が島の伝統的な多声的ポリフォニックな声楽と結合して生

まれた音楽である。クック諸島に導入される前に同じ東ポリネシア文化に属するタヒチの音楽が基礎にあるから、キリスト教の普及とともに、それぞれの島で独得なイメネ・トゥキがつくられるようになった。

●楽器と踊り

音楽の演奏や踊りに欠かせない主要な楽器は木製の割れ目太鼓nawaとサメ皮の太鼓payu magoである。今日では木製の割れ目太鼓よりもずっと大きな音量を出す空の石油缶tiniが、割れ目太鼓を先導する重要な楽器になり、スティックも長く太いものが使われるようになった。

これらの楽器を用い、踊りをともなうものにはパタウタウ patautau やウパウパ upaupa ウラパウ urapua などがある。土着の要素、おそらく、カパと呼ぶ音楽と踊りが外来の要素と融合して出来た形式で、チャントと太鼓と踊りのはげしく、華やかなリズムをもつ。歌い手たちが輪になって坐り、一人の男の踊り手を取り囲む。手を叩き、膝を打ち、腕を交差させて、パーカッシヴな踊りがくりひろげられる。

●音楽の社会的機能

チャントを歌い、太鼓を叩き、踊ることによって、人々は各集団のレベルで固有の文化を共有し、文化的象徴をつくり、継承する機会をもつ。キリスト教を受け入れて以来、音楽のスタイルはかなり変化したとはいえ、それは創造性に富んだものであり、伝統的な社会的機能に基本的な変化は認められない。例えば、競技の相手に対抗心を燃やしたり、反社会的な行動を非難したりするときには、即興的なチャントによってなされるが、それに用いられる引用や冷やかしの揶揄の表現は、実にユーモアにあふれたもので、その優れたセンスが才能として評価されるような仕組みをみることができる。また、音楽の演奏によって、小さな社会の中で起こりがちな緊張や諍いを無事に解消するような機能は、古くから伝えられてきたものではないだろうか。実際の戦争や暴力的な抗争がこの島にはなかったことは、おそらくこのような音楽的な安全弁の機能が働いていた可能性がある。小さな孤立した社会での人間関係を維持するための機能として、チャントのもつ役割が失われたわけではない。

注目すべきは、キリスト教の讃美歌であるイメネ・ツキの歌詞のなかに、今では語られることのなくなった神話や伝承が組み込まれるようにして、よく保存されていることである。讃美歌を精査して、キリスト教導入以前の伝統的な文化を探し出す作業が残されている。

●社会的創造

今日、若い世代の労働移住によって、島を離れて暮らす人口の方が、島に居住する人口よりも多くなった現状を考えると、伝統的な音楽形式の継承が難しくなっていることは否めない。ギターやウクレレなどの楽器の採用、ビデオなどの普及による音楽変化だけではなく、踊りの組み立てにも変化がみられる。しかし、その一方で四年に一度開催される太平洋諸国の芸術祭や首都ラロトンガで開かれるクック諸島全体のコンペティションで、島ごとの音楽の特徴が求められる傾向があり、そうしたことが民族的な音楽に再興の機会を与えていることも間違いない。西欧文化と接触して以来、混合と創造の過程でつねに新しい形式が生み出されて来たように、現在、さらに新たな音楽的創造の段階に入ったと云うことが出来る。

*ちかもり・まさし 慶應義塾大学名誉教授 文学博士 専攻 考古学・サンゴ礁学・民族学 著書:『サンゴ礁の民族考古学』(雄山閣)1988年『サンゴ礁の景観史』(慶應義塾大学出版会)2008年『サンゴ礁と人間』(慶應義塾出版会)2013年『キキ自伝-未開と文明のはざままで』(訳)学生社1978年 JICAとの関係:海外技術協力センター講師('65年まで)カンボジア王国派遣コロンボ・プラン専門家('65~'67年)日本青年協力隊技術専門員('06年まで)シニア海外ボランティア技術専門委員('06年まで) 海外学術調査:ソロモン諸島西北部・レンネル島、バブア・ニューギニア、ニューカレドニア、フィジー、ウォリス諸島、クック諸島、バヌアツ共和国、フランス領ポリネシア、マーシャル諸島、ツバル国、オーストラリア・ノーザンテリトリー、カンボジア王国、タイ国ウドンタニ県、台湾・蘭嶼など。

JECKでは、横浜国立大学経済学部より依頼を受け、株式会社コマツ製作所や株式会社テルモからも協賛を受け、平成22年度と平成23年度に委託講座を担当した。

この実績によって、今回は関東学院大学から依頼を受け、同大学経済学部の経済学科と経営学科の二次生以降の学生を対象にした授業の企画・運営に関わる委託業務に関する契約を締結した。この企画による授業は、2015年度前期、すなわちこの4月から開始される。

授業科目名は、「国際協力の現場」と題し、実際に経済援助・経済協力に携わっていたJECK会員から国際協力の現場に関する講義を聞くことで、経済学部の学生に日本の国際協力の実態について関心を高めてもらうことが本科目の目的となっている。

講師陣には、国際協力の仕事の内容と自らの貴重な体験談について講義するとともに、現代の国際協力の果たす役割と今後の課題に

ついて触れることが期待されている。

JECKからの講師陣と講師内容は、下表の通りとなっている。次回会報には、この結果や成果について報告したい。



契約書調印 福田経済学部長(右から2人目)とJECK植岡理事長(右端)

	日 程	分 野	講 師	テ ー マ
第 1 回	4月 9日(木)		倉 科 和 子	国際協力の潮流
第 2 回	4月16日(木)	食品供給・衛生	植岡 龍太郎	日本の食糧の安全
第 3 回	4月23日(木)	医療・衛生	内 倉 和 雄	医薬品の品質管理に関する国際協力
第 4 回	4月30日(木)	産業振興	安 延 義 弘	発展途上国における農業の技術協力のあり方
第 5 回	5月 7日(木)	上下水利用・処理	上 田 恵 一	水は国の血流・中東ヨルダンの体験
第 6 回	5月14日(木)	上下水利用・処理	工 藤 眞 也	メキシコ国の水環境整備状況について
第 7 回	5月21日(木)	その他(計量制度)	山 田 敏 夫	計量制度の国際技術協力
第 8 回	5月28日(木)	その他	白 川 和 司	インドネシアにおける小規模平屋建住宅の問題と震災発生時の対応事例
第 9 回	6月 4日(木)	その他(IT)	石 井 信 行	IT分野での技術協力
第10回	6月11日(木)	産業振興	渡 部 耕 司	石灰利用技術に係る研究開発支援と現状
第11回	6月18日(木)	中小企業指導	松 田 勲	東欧における企業競争力強化支援のための技術指導
第12回	6月25日(木)	中小企業指導	肥 後 照 雄	国際ビジネスの現場～世界の中小企業を指導して～
第13回	7月 2日(木)	中小企業指導	福田 信一郎	欧州復興開発銀行(EBRD, European Bank for Reconstruction and Development)の市場経済支援プログラムで中央アジアの企業の市場経済移行支援業務に従事して
第14回	7月 9日(木)	中小企業振興	加 藤 博 通	財務管理を中心とした中小企業経営改善
第15回	7月16日(木)	その他(生計向上)	田 中 秀 幸	JICA草の根事業の現場から

イラン旅行記

JECK会員 上田 恵一

昨春、82歳を迎えたのを機に、妻より楽しみであった“国外一人旅”は“まかりならぬ”となりました。それでVISAがツアーでないとい取得が困難な、兼ねてより関心があり、今動きつつあるイランに決め、大手でない某旅行社ツアーに延泊を加え19日間出かける事にしました。

ゾロアスター教が何故“火”の権威で民衆を惹きつけることが出来たのか疑問を持っていましたが、現地に行き納得しました。支配層は山岳地帯の雪解け水を連通管方式などの水文学的土木技術を駆逐して貯水池を作り個々の部

落へ配水し、南部のチョガサンビルでは、ワジの濁流から沈砂池の端にスリット型上向流式砂ろ過層を設け、飲み水を確保したのではと推測できました。

それがBC2000年クラスの遺跡です。有名なカナートには、風を取り入れる風洞を作り水の蒸発潜熱で冷却する氷室があり、地震国ザクロス山岳地帯ではヴェーワンと呼ばれる正方形柱の耐震設計構造の城郭やモスクを築くテクノクラートが居て支配していたことが具体的にわかり納得しました。イランは米作、茶・桑・絹・鉾石さらに石油を有し、中国、インドに繋がる大国だと

の感想を持ちました。現地の人との話の中で文化・宗教面では、イスラム教に帰依したのは武力で制圧されたからではない、イスラム教はより優れていると信じたからだとく

どいように強調していたのが逆に印象に残りました。一方、中東の砂漠のスニ派より草原の我々の方がはるかに文化も歴史も深いと自負一蹴していましたが両民族の対抗心の強さを感じました。それ故モザイク模様にも草花やバラを配し具象的であり、人物画もあり西方イスラム・ウマイヤ諸王朝とモザイクのデザインの違いがはっきりしていました。

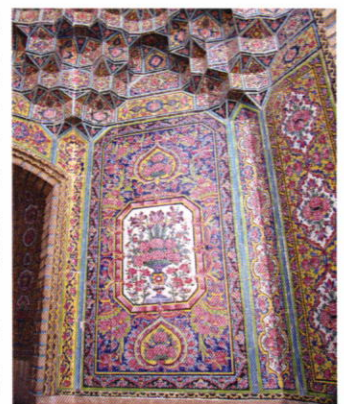
イスラム教の国であり、クルアーンは原語以外の現地語に翻訳し聖典を唱える事は禁じられているので、アラブ語がもっと通じるかと思いましたが意外でした。挨拶程度のみ、アフワーズ以外では通じませんでした。無難なのはフランス語で、イギリスの植民地でしたが歴史の皮肉です。シーア派の聖地マシュハドを訪れ、緊張感がありました。我々が伊勢神宮を訪れた時 肌に響くあのホリーランドの雰囲気の様なものでした。

ピスタチオ入りのサフランの香りと色のアイスクリームは秀逸でした。日本でまだ見つけていません。

最後にツアーの女性達から言われたこと、それはカルチャーショックでした。女房を幸せにしたいなら『男は、80歳以上長生きしてはならぬ』でした。“心”を皆さん考えてください。



Takh-e Soleymanの貯水池



具象的な薔薇のモスク壁画

私は推薦団体JECKの推薦のお蔭で水道水品質分析の分野で2014年度神奈川県海外技術員プログラムの技術研修員となりました。水処理技術が国際的に認められている日本に於ける研修は私の研究室での水道水の物理的、化学的及び微生物的スキルを強化する最高の機会です。日本の水は安全、きれいなだけでなく美味しいです。私は水質分析技術と膜ろ過、オゾン、粒状活性炭(GAC)等の高度な水処理技術を習得したいと希望していました。今回の研修で得られる知識は私が所属するタイ首都圏水道公社(MWA)での私の現在の職務及び水処理プラントの水質研究所で働く化学者にとっても有益になるでしょう。

私の研修生活は相模川が流れる平和で小さな町寒川町にある神奈川県企業庁水道水質センターで始まりました。私はまず原水から飲料水製造理論、各家庭への給配水プロセスを習いました。そして原水のサンプリングの為に川、湖、地下水、等沢山の水源を訪問しました。その後県の2つの大きな浄水場(WPP)、寒川及び谷ヶ原浄水場で水処理プロセスと設備について習いました。また中空糸膜(MF膜、UF膜)及び紫外線処理のような色々な高度な水処理プロセスを有する浄水場も訪問しました。さらに東京都水道局三園浄水場でイオン及び生物活性炭(BAC)による処理技術、そして横浜市水道局川井浄水場では大型セラミック膜ろ過処理技術について学ぶ機会を得ました。各プロセスの特性に大変興味を持ちました。ポンプステーションを訪問し給水の管理と制御、再塩素殺菌設備、小型水力発電設備、公園や太陽光発電設備に利用している貯水池を見学しました。更に保守部門のスタッフと給配水管に対し地震対策や漏水対策工事を実施している工事現場を見学しました。また顧客である一般家庭を訪問し飲料水のサンプリングと自動水質監視システムを観察しました。

勿論私は水質検査に関する技術も習いました。それは日本の水質基準におけるパラメーターの重要性及びサンプル水の採取と管理、サンプルの抽出と一次処理、分析法の理論、分析機器、分析手順、正確な分析の為に品質管理、日本水道協会(JWWA)が認証するGLP(Good Laboratories Practice)に基づき実施される水質試験の信頼性についてです。分析化学者の作業効率を上げる為同時にいくつものパラメーターの分析を可能にする自動採水器の利点、試薬貯蔵庫への許可された者だけが所有するカードにより入室可能にする管理、及び分析試薬の量の決定や貯蔵量を管理するデータベースについても習いました。



神奈川企業庁水道水質センターの実習

水質分析センターの室内の配置は分析結果及び分析従事者への健康に影響する外部からの汚染を防ぐよう設計されています。分析中、病原体、農薬及び有機溶剤など健康に影響するパラメーターを排除する為分析従事者は常時手袋、マスク及び安全眼鏡を着用する必要があります。また、有機廃棄物の適正な管理を含め廃棄物の量と廃棄物処理費用を減らすように設計されています。

分析機器は公正さと精確さを期し定期的に校正されています。品質管理プロセスは分析結果の品質を保証します。GLP認証を維持するために毎年内部監査を実施し、2年毎外部認証機関による認証を受けています。

水質管理の各プロセスは安定した飲料水供給、安全で高品質の水の供給責任に影響します。

今回の研修で習得した技術は現在の私の仕事に直接利用出来ます。帰国後出来るだけ早く習得した知識を同僚と共有したいと思います。また我々がかつて経験したことが無い新しいパラメーターの分析技術や方法を実施する可能性について議論したいと思います。それは最も有用な分析作業の開発や将来の分析精度を高めることになります。私はまた手順書としてこのプログラムで学んできた分析方法を完成したいと思います。

私はこのプログラムに参加する機会を与えられたMWAのスタッフとして神奈川県企業庁とMWAの友好に務めたいと思います。両組織は将来お互いに貢献と友好協力関係を持つでしょう。



JECKでの研修報告会

最後に私は自分の人生で最高の機会を与えてくださった神奈川県、MWA、及びJECKに感謝の意を表したいと思います。また研修では有益な知識と技術を献身的にかつご親切にご指導して頂きました神奈川県企業庁、水道水質センター、寒川浄水場及び谷ヶ原浄水場の皆さんに厚く御礼申し上げます。有難うございました。

(オイルさんの投稿文(英文)を福田会員が翻訳)

*イッチイロツチャクン パッチャラポーン 愛称オイルさん タイ国 Metropolitan Waterworks Authority 勤務

編集後記

今号は予算の関係で4ページ立となりましたが、内容の濃い会報になったと自負しております。

JECK創立記念近森名誉教授の講演は、中国船による貴重サンゴの密漁が問題になっている時期でもあり、造礁サンゴによるサンゴ礁に住む人間、その人々の文化に関する興味深いものでした。講演会に出席できなかった会員も、是非講演要旨を玩味してください。

横浜国大に続く関東学院大学での授業受託は、学生の国際協力について関心を高めることが主目的ですが、講義するJECK会員の活性化にも寄与します。今後の成果を注目しましょう。緊張状態が続いている中東を、専門家の視点を加えながら、イスラム文化を探った「イラン旅行記」も興味深いものです。

神奈川県招聘海外技術研修員オイルさんの研修報告書からは、彼女が日本の最新技術を吸収しようとする真摯な態度、研修先の熱心な指導、JECK担当者の献身的なサポート、これらの日本側の好意に対するオイルさんの素直な感謝が感じられます。

(大平一昭)

JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第24号

発行 2015年3月31日

発行者 JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)

事務局 横浜市中区新港2-3-1

JICA横浜国際センター3F 内

URL: <http://www.jeck.jp/>

事務局長 肥後 照雄 e-mail: t_higo@cb3.so-net.ne.jp

編集委員会 植岡 龍太郎(編集責任)

大平一昭、佐藤満寿哉、小泉由紀子

印刷 株式会社横濱リテラ URL: <http://www.yokohamalitera.com/>

e-mail: info@yokohamalitera.co.jp

横浜市戸塚区上矢部町1965-4